



コフキトンボ



産卵中のギンヤンマ



昨年より大幅増！

井の頭池を飛び交うトンボたち



マユタテアカネ



ハグロトンボ



初記録のタイワンウチワヤンマ

ギンヤンマは昨年のモニタリングではのべ確認数が4頭だったが、今年は36頭に増加した。水面に浮かぶヨシなどに産卵（裏面へ）

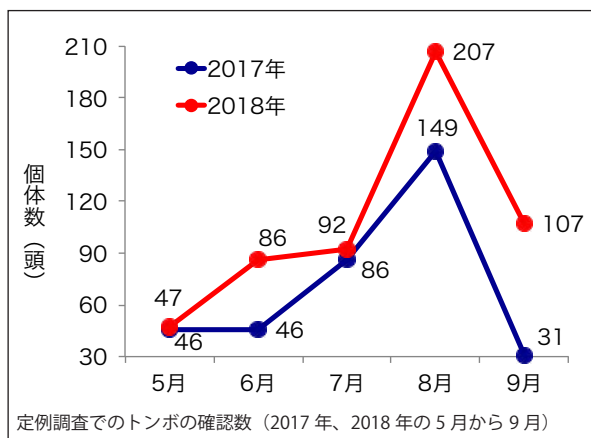
井の頭池では3回のかいばりによって前記の①②③④の状況が好転した。かいばり29の後、これまで以上に②③の効果が表れている。陸地と水域の境界付近にある浅い湿地は、水生植物が生育し、稚魚や小型の生きものが育つゆりかごになる。こうした湿地を利用するトンボは多い。井の頭池ではかいばりのたびにコンクリート護岸の地先に浅場を整備し、水生植物の生育基盤を増やしてきた。かいばり29では新しい浅場を造ったほか、既存の浅場でボランテアによる再整備も行った。浅場ではオオシオカラトンボ、マユタテアカネなどの産卵が観察されている。

ポイントは湿地の増加

今年度のモニタリング調査の結果、トンボが増加していることがわかった。5月から9月の各月に1回、池を回ってトンボを観察。21種540頭を確認した（任意調査を含む）。昨年の17種361頭より4種多く、個体数は5割増加。月ごとの確認種数も7・6種から12・4種に増加し、種数が豊かになっている。

トンボが増えた要因としては、①外来魚のブルーギルやコイを取り除いたことによるヤゴの生存率アップ、②水生植物の再生によるトンボの食物や産卵環境の増加、③浅場の拡充によるトンボの生息環境の増加、④定期的なかいばりによる良好な水質の維持、などが考えられる。

井の頭池のトンボ増加





張網の回収。
小型定置網と言っても、けっこう大きい！

今号のイチオシ！ 自然情報



いけいけ！かいぼり隊

イケメン イケガール
～池男&池女、モニタリングをする！の巻～

は11月まで。

秋の調査では、今年生まれた幼いエビや小魚がたくさん網に入る。かいぼり隊員の悲鳴がさらに大きくなりそう。水生生物モニタリングだ。

網に入る生きものは、当初は外来魚のオオクチバスやブルーギルが目立っていた。二回目のかいぼり（2015年11月～2016年3月）以降は、外来魚駆除の効果で在来種が多くなってきた。かつては1匹見つかるの大喜びだったハゼ科のウキゴリは、今ではすっかり回復して普通種だ。スジエビやテナガエビもどっさり入る。体色が透明だから、「見えにくくて数えるのが大変だよ」とうれしい悲鳴が上がるほどだ。

5年目を迎えた井の頭池の水生生物モニタリング。今年も調査に精を出している。

池に張網（小型定置網）を7個仕掛け、網に入った生きものの種類と数を記録する。モニタリングは池の定期検診だ。毎回同じ時期・同じ位置で調査を継続することで、生きものの生息状況の変化が見えてくる。

（二面から）する様子も観察されている。

かいぼりによってトンボが増加したことは大きな成果だが、浅場の面積や水生植物の生育範囲は、池全体からすれば広いとは言えない。こうした部分を今後の自然再生の伸びしろと捉え、引き続き浅場や湿地の整備に取り組んでいきたい。

カイツブリ 遅めの子育て

10月にヒナが誕生しました。一般的な繁殖期は4月から7月。木枯らしが吹く前に大きくなって！

ぼりさん⑥



Topics



まるで鏡のよう 静寂な井の頭池

最近、池にある円盤形の噴水が動いていないことにお気づきでしょうか。この「噴水型曝気装置」は、かつて水質悪化が問題になっていた時代に、水中に空気を送る目的で設置されました。

近年、水質改善の方法を機械的な浄化対策から自然の力を活かしたがいぼりへシフトチェンジし、成果が上がっています。さらに水草調査などの結果から、この装置が底泥を巻き上げて水を濁らせたり、装置周辺に泥を堆積させていることがわかりました。イノカシラフラスコモなどの貴重な水草の生育にも支障が出ているので装置を止めています。停止中の装置では水鳥がひと休みする姿も。七井橋からよく見えるので注目を集めています。

また井天池上流部にある小型の装置は、井戸水を噴水として放出し、チツ素を空気中に逃がすためのものです。こちらは8月の落雷で井戸揚水ポンプの一部が故障したために停止中。復旧までに数ヶ月を要する見込みです。



ここ、
ちょうどいいの♪

奇しくもすべての噴水装置が停止している今年の秋。波ひとつない静かな水面の景観をお楽しみください。